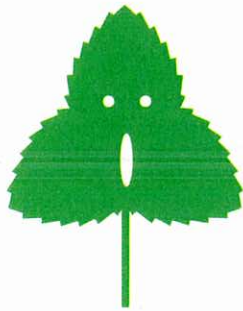


1 食育にかかわる愛知県の特徴

愛知県には、食をめぐる課題でまとめた体、心、環境の三つの視点に関連して次のような特徴があります。この特徴を活かし、食育を推進していきます。



- 健康長寿あいち宣言
- 「8020運動」発祥の地
- 充実した学校給食
- 盛んな農業・食品製造業と豊かな食文化
- 環境に対する県民意識の高まり

健康長寿あいち宣言

今から約20年後に県の人口の4人に1人が65歳以上になる*と見込まれています。愛知県では、平成18年3月22日に「健康長寿あいち宣言」を行い、産・学・行政の協働のもとで、県民の健やかな成長といきいきとした健康長寿の実現を目指しています。

はちまるにいまる

「8020運動」発祥の地

「8020運動」は、生涯、自分の歯でおいしく食事ができるよう、80歳で20本は自分の歯を保つことを目指す運動です。平成元年(1989)に愛知県で提唱され、それ以降この運動が全国に広まり、今では国の「健康日本21」の目標の一つになっています。

* 県企画課(当時)が平成17年に行った推計では、65歳以上の高齢者の人口に占める割合は、2005年の約17%から2025年には25%程度と予測されています。

充実した学校給食

愛知県の学校給食は、公立小中学校の完全給食*の実施率が100%と全国トップレベルにあるなど充実しています。

盛んな農業・食品製造業と豊かな食文化

愛知県は、全国有数の農業県、食品製造県であり、また、長年培われてきた地域色豊かな食文化も数多くあって、食に関する様々な体験をしたり、食文化に触れる機会に恵まれています。

環境に対する県民意識の高まり

「環境先進県」を目指している愛知県では、2005年日本国際博覧会(愛知万博)の開催を通して環境に対する県民の意識がさらに高まっています。



*完全給食

主食と牛乳と副食がそろった給食を言います。
県内の公立小中学校においては、完全給食を100%実施できる体制になっていますが、一部では、弁当を持参してもよいことになっています。

食育に対する県民の意見

平成17年度に実施した県政モニターアンケートでは、約9割の方が「**食育をさらに進めるべき**」と回答しています。

また、このアンケートでは、次のような意見が寄せられました。

- 食糧不足の中で育った私からみれば、今は食べ過ぎ。食や農業等の大切さを小中学生に十分指導して欲しい。
- 子どもたちの農山漁村体験留学等の機会を増やし、自然の恵みのすばらしさや職業についていろいろ感じて欲しい。
- 子どもは、学校での野菜栽培や調理実習を楽しんでいる。一般の人でも楽しむことができるような機会が地域にあると良い。
- 小中高教育の中で食育を正式に教えるようにするべきと思う。
- 小さな子どもがいる家庭では、食育が最も重要だと思う。
- 一番重要なのは食育。早急に学校や地域で食に対する知識や体験を伝え、農業に関心を持ってもらう必要がある。
- 「食=命」という発想が飽食の時代にあっては生まれにくい。教育分野との結合、学生の部活動やボランティア活動などを通して「食=命」ということを身近にしてはどうか。
- 伝統食、伝統文化を守っていかなければならないことを一人ひとりが意識し、学校と地域で教える必要がある。
- これから母親になる人は、ファストフードで育ってきた世代であるので、学校で子どもたちに食の大切さを教えるときに親も一緒に学べたらと思う。